

鳥羽城跡（三重県史跡）

鳥羽城は、九鬼嘉隆くきよしたかが文禄年間（1592～1596）に築き、その後寛永10年（1663）に内藤忠重が入封してから二の丸、三の丸を増設し、近世城郭として体裁が整ったとされています。鳥羽城は、水軍の城らしく大手門（水門）が海側に設けられ、四方を海で囲まれた全国的にもまれな特徴をもつ海城でした。

この場所は右下の絵図の三の丸があった場所になります。

鳥羽城に関する古文書は、内藤忠勝の時代の延宝8（1680）年に内藤家が断絶となった際の作事書に、天守三重とあり、規模は5間×6間で、高さ約19.5mであったとされ、天守下には蔵もありました。

天守閣や本丸があった本丸は現在、グラウンドになっており、建物などは残っていませんが、石垣一部が相橋と本丸西側などに残っています。

城跡からは九鬼氏、内藤氏、稲垣氏の家紋の入った瓦が採集されています。



絵図に描かれた鳥羽城（鳥羽市立図書館蔵）



鳥羽城絵図（鳥羽市立図書館蔵）

鳥羽城の構造

総面積	32,280坪
外曲輪惣堀	1,466間
矢狭間の堀	942間
水門	4ヶ所
門（相橋口門、横町口門、藤口門）	3門
曲輪櫓（三重1、二重5、一重7）	13箇所

（廃藩置県時の記録）

鳥羽城の歴史

九鬼氏の段階

九鬼嘉隆が鳥羽城を築城したのは、文禄3（1594）年とされていますが、九鬼氏の段階の城の様子は不明な点が多く、この時に天守閣も建てられたのかどうかなど詳しいことはわかっていません。しかし、現在の本丸石垣などは野面積みであることなどから、九鬼家の段階にはある程度の城郭は整備されていたと考えられます。

九鬼氏以後の城主

九鬼氏が国替えによって鳥羽を離れた寛永10（1633）年には、譜代大名であった内藤忠重が城主となり、鳥羽城の二の丸、三の丸を構え、西念寺を藤之郷（鳥羽四丁目）に移すなど近世城郭として整備したとされています。現在の鳥羽城の姿は内藤氏による整備から大きくは変わっていません。

その後、内藤氏は3代続き、殺傷事件により領地没収となり、江戸幕府の直轄領を経て土井、松平、板倉、戸田（松平）と短期間に城主が替わり、稲垣が城主となりますが、その間に鳥羽城は幾度となく災害に見舞われています。

宝永4（1707）年には大地震による津波によって屋敷や櫓が流失し、石垣や城壁が大破したとされ、その後も、寛政4年や安政、嘉永6年などの津波により被害が出たことが分かっています。

明治以降の鳥羽城

明治の廃藩置県により、建物は「無用の長物」とされて取り壊され、堀は埋め立てられ、跡地には旧鳥羽小学校、旧鳥羽幼稚園、鳥羽市役所、市民文化会館が建設されました。この場所も、造船所が出来たため、城の遺構は殆ど残っていませんが、城跡の山側には、城があった当時の地形が概ね残っており、城周辺にある寺の多くは江戸時代から存在したもので、城下町の面影が偲べれます。



本丸跡石垣

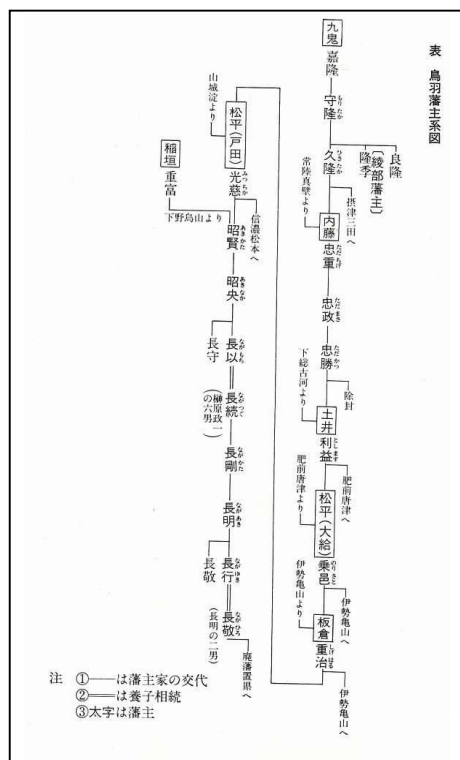


旧家老屋敷跡



本丸跡

鳥羽城主の変遷と年表



絵図に描かれた大手水門付近

1594 (文禄3) 年	九鬼嘉隆により鳥羽城が築城される。
1597 (慶長2) 年	嘉隆家督を息子九鬼守隆に譲る
1634 (寛永11) 年	九鬼家が国替えの後、内藤忠重が城主となる。鳥羽城に二の丸、二の丸にあった西念寺を藤之郷に移す。
1680 (延宝8) 年	内藤忠勝が芝増上寺で刃傷事件を起こし領地没収となる。
1681 (元和元) 年	土井利益が城主となる。
1691 (元禄4) 年	松平乗邑が藩主となる。
1710 (宝永7) 年	板倉重治が藩主となる。
1717 (享保2) 年	松平光慈が藩主となる。
1725 (享保10) 年	稲垣昭賢 (初代) が藩主となる。
1726 (享保11) 年	稲垣昭央 (第2代) が藩主となる。
1786 (天明6) 年	稲垣長以 (第3代) が藩主となる。
1787 (天明7) 年	稲垣長続 (第4代) が藩主となる。
1792 (寛政4) 年	大風雨により鳥羽城櫓等流失、石垣、城壁大破。
1800 (寛政12) 年	暴風によって城壁大いに破壊される。
1824 (文政7) 年	稲垣長剛 (第5代) が二の丸に藩校「尚志館」を設立する。
1838 (天保9) 年	暴風雨により修理する。
1865 (慶応元) 年	稲垣長明 (第6代) が藩主となる。
1866 (慶応2) 年	稲垣長行 (第7代) が藩主となる。
1868 (明治元) 年	稲垣長敬 (第8代) が藩主となる。
1871 (明治4) 年	廃藩置県により鳥羽城の御殿・櫓・門等の撤去が始まる。
1875 (明治8) 年	二の丸、三の丸を払い下げ、本丸のみ官有地とする。
1876 (明治9) 年	蓮池の堀を埋め立て、錦町が成立する。
1878 (明治11) 年	二の丸跡に土族合資の造船所が出来る。
1919 (大正8) 年頃	外堀を埋め、錦町通りをつくる。
1929 (昭和4) 年	旧鳥羽小学校が建設される。
1965 (昭和40) 年	三重県の史跡に指定される。